

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立川越高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 我が校は、広い国際的な視野と自主的創造的な精神を身につけた「自立した学習者」(Independent Learner)を育成し、地域から信頼される進学校としての役割を果たします。
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 利他の心を持ち、行動する心構えと力をもつ、たくましい生徒 (川越高校生につけたい力) ☆ 自ら問題を見つける力、解決する力 ◎ 知的好奇心を持ち、知識を身につける力 ◎ 情報を収集し、分析する力 ◎ 物事を論理的に考える力 ◎ 傾聴・発信・協働する力
	ありたい 教職員像	○ 「文武両道」の活力ある進学校としての実績をさらに向上させ、地域の期待に応えることのできる教職員集団 ○ 個人の資質向上に努めるとともに、組織としての指導力が着実に向上し続ける教職員集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> ほぼすべての生徒が、大学進学を志すとともに、部活動等の様々な活動にもチャレンジし、充実した高校生活を過ごしたいという気持ちを持っている。</p> <p><保護者> 生徒の進路として大学、特に国公立大学への進学を希望しており、安心安全な環境で、学習面をはじめ進路指導の充実を望んでいる。</p> <p><地域> 英語を武器にできるグローバル人材の育成を期待されるとともに、英語教育の先進的な取組の情報発信を求められている。</p>	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p><家庭> 大学進学に向けた指導を充実させる一方、将来をたくましく生きる力をつけた生徒の育成を図ってほしい。</p> <p><中学校> 川越高校を志望する生徒に対しての情報提供を積極的に行ってほしい。</p> <p><地域・大学> グローバルマインドをもって地域社会を支える人材を育成してほしい。</p>	<p><家庭> 家庭での学習習慣や、基本的な生活習慣を学校と協力して身に付けることができるようにしてほしい。</p> <p><中学校> 川越高校への進学を希望する中学生の要望を学校に伝えてほしい。</p> <p><地域・大学> 外部指導者として高校の授業、特別活動等を支援してほしい。</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライブ配信を上手に活用したと感じている。今後もうまく活用しながらやっていければよいのではないか。 ・ICTの普及で動画の配信、オンラインのやりとりが格段に増えているが、情報の流出、悪用などに注意する必要がある。 ・グローバル人材の育成を目指すのであれば、中長期的にはTOEICやTOEFLなどについても視野に入れる必要がある。 ・組織運営の向上について、教職員が自分の役割の中でカリキュラムをうまくマネジメントしていくという意識を持てば効果が出てくるのではないか。 ・グローバル人材の育成についての成果指標について、1年、2年、3年と数値がだんだん下がっていくのが気になった。頑張っって自信をつけていく場面をもっと設定していくことができればよいのではないか。 ・保護者としては、国際文理科だけでなく、普通科の生徒も英語が得意で好きになっていくような英語教育の取り組みを期待したい。 ・感染症や働き方改革の影響により、コミュニケーションをとる時間(部活動を含む)が減少していないか気になっており、フォローアップの取り組みが必要ではないか。
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学現役合格者は毎年100名を超えており、生徒は学習活動に熱心に取り組む姿が見られるが、受動的な姿勢が強く、自立した学習者を育てるための指導の工夫が必要である。 ・総合的な探究の時間を核としてキャリア教育を推進しているが、進路意識の育成や学習習慣の定着を図るため、教育活動全体を通じて学習や進路に対する内発的動機を喚起する取り組みが求められている。 ・新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえながら、命を大切にする教育を推進し、部活動や生徒会活動の充実をはじめ、生徒の自治能力や主体的な行動力、政治的教養の育成、ルール・マナー遵守の指導を充実することが不可欠である。
	<p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、生徒の進路希望の実現のための授業や面談、部活動の指導等に日々邁進しているが、生徒・保護者や地域社会のニーズ把握、分掌間の意思疎通が十分でない面があり、学校全体の指導体制を検証して効果的な教育活動を充実していく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対応として、学校行事等の運営方法を見直すなかで、ICT活用の充実などを強くする推進していく必要がある。

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒が主体的に学習活動や部活動に取り組み、夢の実現に向けて継続的に努力するための学習環境づくりを推進する。 ・各教科・学年において生徒の学習状況に応じた効果的な指導方法の研究を深めるとともに、川越高校の指導方法を確立する。 ・国際文理科においては、総合的な学力のレベルアップを図り、グローバル社会をリードする人材育成に取り組む。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒につけたい力を常に意識し、教育課程や指導方法を検証して教育活動の質の向上を図るためのカリキュラム・マネジメントを確立する。 ・ICTを活用して生徒・保護者等への積極的な情報発信を行い、生徒や保護者との対話、教員同士の対話を活発に行う体制をつくる。 ・学校運営の在り方について協議する場を定期的に設けるとともに、教職員が意欲的に業務に取り組むために効率の良い組織運営を目指して過重労働の削減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<p>(1) 探究的な学びや主体的・対話的で深い学びの実現に向け、観点別評価を意識した授業改善に取り組む。</p> <p>(2) 「川越高校生につけたい力」を意識した教科横断的な学習指導について、各教科・学年が連携して実践・研究を進める。</p> <p>(3) 生徒1人1台学習端末を積極的に活用し、オンライン教育やデジタル教材の活用などに取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的・効果的に学ぶための授業・課題・テスト等の在り方についての検討。 各教科における観点別評価の実践。 相互観察票を用いた教科横断的に行う授業研究。(6月、11月にそれぞれ10日間実施) 1人1台パソコンを用いた効果的な授業実践研究。(全学年) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「つけたい力」の内容を意識して学習活動を充実することができたと答えた生徒の割合 80%以上(前年度 83.9%) 	<ul style="list-style-type: none"> 相互観察票による教科横断的な授業研究によって、教科を越えて授業の取り組み方を学ぶきっかけ作りにできた。(教務) 生徒1人1台端末を各教科で、授業や課題などを通して活用できた。(1年) 朝学を年間通じてできたことは主体的に学べて良かった。(2年) 多くの教員がオンライン授業・デジタル教育を積極的に行った。(3年) 78.9%(1年 79.4% 2年 73.9% 3年 83.0%) 	<p>※</p> <p>◎</p>
キャリア教育の充実	<p>(1) 進路学習および探究活動を通して、3年間を見通したキャリア教育の計画を立てる。</p> <p>(2) 教育活動全体を通じて自立した学習者を育み、自己実現に向けたキャリア教育を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率的で充実した面談を行うための年間指導計画を整備。(全学年・進路指導部) 文理選択、コース選択の事例共有。 職業や学部学科研究など進路について考える機会を拡充。 総合的な探究の時間における探究活動の実践。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来の自分のありたい姿をイメージすることで、進路意識を向上し、学習習慣が定着したと答えた生徒の割合 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望や学習意欲などを踏まえ、個々の生徒に寄り添った進路面談の充実 より体系的な低学年からの進路指導の充実が今後の課題として考えられる。 進路学習を通して、自分の将来の進路設計についての理解は「とても深まった」「やや深まった」と答えた生徒の割合87%(3年生) 78.6%(1年 74.0% 2年 78.8% 3年 88.2%) 	<p>◎</p>
グローバル教育の充実	<p>(1) グローバルな視点で自分の将来を意識し、自律的に学習に取り組むことができる人材を育成する。</p> <p>(2) 英語を自己実現の「有効な手段」として使えるよう、実践的な指導をさまざまな機会を通じて行う。</p> <p>(3) 全国の国際関連学科の現状をはじめ、海外の教育事情等の調査研究を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語4技能獲得に向けた資格取得の推進。(以下、国際文理科を中心に) 社会で活躍する専門家・大学研究者とオンラインでつなぐ英語による特別授業の実施。 オンラインを活用した海外大学等と連携した英語プレゼンテーション。 国際関連学科調査研究チームの発足。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や考えを英語で話したり書いたりすることができ、将来、実際のコミュニケーションの場面で英語が活用できると答えた生徒の割合 75%以上(前年度 71.8%) 国際文理科において卒業時に英検2級レベル(CEFR:B1)の英語運用能力を獲得できた生徒の割合 70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> シンガポール訪問はできなかったが、国際文理科2学年は日本文化とSDGsに関連するテーマ設定、原稿・スライド作成、プレゼンテーションの練習に取り組み、オンラインプレゼンテーション研修を実施できた。 英語を「自己実現の有効な手段」として使う経験をすることで達成感や自己肯定感を味わうことができた。 プロフェッショナルから学ぶ特別授業を通して、生徒たちは将来に向けた視野を広げ、学習意識を高める貴重な機会を得ることができた。(国際) 61.2%(1年 64.6%、2年 59.3%、3年 56.4%) 59.7%(3年77人中46人) 	<p>※</p> <p>◎</p>

改善課題

- ・1人1台端末やデジタル教材については教員間での習熟度の差が大きいため、効果的な実践研究を深めて指導力の向上を図る必要がある。
- ・「探究」をまだ体系化できていないため試行錯誤しながらも川越スタンダードを作っていく必要がある。
- ・感染症対策をしながらの対面実施は困難な面もありスタディーツアーの実施に影響が見られ旅行行程や研修内容において生徒保護者から意見が寄せられた。常に変化する社会情勢や生徒の意識に対応する必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員の資質及び組織運営の向上	<p>(1) 学校運営の中で重点的に取り組む事項を整理し、積極的に情報共有を図り、全教職員が適切に役割を分担し、学年・分掌が相互に連携を図る。</p> <p>(2) 校内研修により教育活動の質の向上を図り、教職員の体罰防止、不祥事根絶のための取り組みを充実する。</p> <p>(3) 教員相互の対話を促し、令和時代の新たな学校の将来像を検討し、学校改革を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント委員会における実践研究。 ・学校信頼向上委員会の設置、「信頼される学校であるための行動計画」の立案・実践。 ・体罰防止、不祥事根絶をはじめとする様々な教育課題に関する校内研修会の実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントに関する諸事項について、昨年に比べて理解を深めることができたと答えた教職員の割合 80%以上 (前年度 72.4% R2 70.0% R1 57.4% H30 59.0%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議・朝の打ち合わせを全てオンラインで実施。 ・月1回CM委員会(学校信頼向上委員会)を開催、学びのコツに関する取組を協議した。 ・教職員研修会は4回実施(特別支援、人権、コンプライアンス、学習方略)に留まった。 ・欠席過多や要配慮生徒の情報共有等、学年・分掌の連携が不足している。 ・校長と学年主任で不定期の座談会が出来、情報共有出来た。 <p>78.3%</p>	◎
地域・保護者との連携	<p>(1) 家庭・地域の積極的な協力を得て、命を大切にする教育をはじめ、交通安全教育、いじめ防止教育、防災教育、道徳教育の充実を図る。</p> <p>(2) 生徒が将来に向けて幅広い体験をして視野を広げることにより、豊かな人間形成を図る。</p> <p>(3) 情報提供等を積極的に行うことにより、家庭・地域との連携を深め、信頼の構築に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や学校行事の保護者等へのライブ配信。 ・生徒のアイデアによるいじめ防止、交通安全、自転車運転マナー向上の取り組み。 ・地域と連携した教育活動の推進。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育活動について学校・家庭・地域が連携できていると答えた保護者の割合 70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラッシャーを通じて保護者・生徒ともに密に連携をとることができた。 ・保護者と連携した交通安全指導を実施した。 ・ZOOM・YouTube による学校行事のオンライン配信ができた。 ・保護者に比べ地域との連携が進んでいない。 <p>・11/12 学校見学会 603 人参加。</p> <p>92.4% (1年 93.0% 2年 92.7% 3年 91.4%)</p>	

働きやすい 職場環境 づくり	<p>(1)従来の発想を変えて業務の整理と効率化を図ることにより、生徒の夢の実現を最大限支援できる組織を実現する。</p> <p>(2)教職員の過重労働の解消に取り組み、有給休暇等を取得しやすい環境をつくる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによるオフサイト・ミーティングの実施。 ・一斉退校日を月1日以上設定。 ・部活動ガイドラインに基づき、部活動休養日を週1日設定。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの月平均時間外労働 15時間以下 ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 25日以上 ・一斉退校日に定時退校できた職員の割合 100% ・部活動休養日に予定通り休養した部活動の割合 100% ・放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・休暇取得しやすい職場環境づくりが学年団にある。 ・教員の役割分担、仕事量のアンバランス・負担感がある。 ・教員の言動に対して指摘しやすい環境がある。 <p>24時間(4~1月) 15人(4~1月) 65人(4~1月) 20.0日(4~1月) 97.3%(4~1月) 98.0%(4~12月) 94.2%(4~1月)</p>	※
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を zoom によるオンライン配信だと画質音質に問題がある。可能な限りライブ配信は youtube で行なうことを検討する。 ・必要に応じて部会等での情報共有や仕事の分担等について話し合いを持たなければならない。 ・交通事故が非常に多く生徒への注意喚起とともに保護者へも登下校の注意を頻繁に伝える必要がある。 ・欠席生徒、保健室利用の生徒が非常に多く、担任の業務も増え非常に煩雑になっている現状がある。 ・コンプライアンス研修は本校独自の課題（答案紛失等）について、研修を行なう。 ・保健室来室者・教育相談件数増加への対応、特別支援教育のさらなる研修が求められている。 			

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・「つきたい力」の1つ1つが生徒がどの教育活動で身についたか、生徒が自分の変容をわかる調査方法を検討すべきである。 ・保護者との連携に比して地域との連携が少ないように感じるので増やしていただきたい。 ・自転車の乗り方（マナー）について交通事故が懸念されるので指導を継続すべきである。 ・川越高校生の発表をもっと地域や中学生に向けて発信すべきである。
-----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	<p>【学習指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末のさらなる有効活用を各教科で試行錯誤を継続したり、事例報告会を行ったりして情報共有を行う。 <p>【キャリア教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談の内容を充実し、目指す進路目標に必要な学習習慣を身につけるための適切な情報提供及び指導を引き続き行う。 ・探究活動を通して変わりゆく社会について学び、職業や学部学科研究などを含めて、進路について積極的に考える機会をつくる。 <p>【グローバル教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文理科も設立10年を超え、改革が必要である。国際文理科のさらなる前進に向けて、学校全体で協議する必要がある。またシンガポール訪問について感染対策や価格高騰・特別授業の内容・スケジュールリング等を関係各所と連携し情報を収集しつつ計画する必要がある。
------------------	--

学校運営につ
いての改善策

【教職員の資質及び組織運営の向上】

- ・欠席過多、単位認定、学校生活で配慮が必要な生徒等は教科担当者間や分掌での情報共有を図り対応を情報共有できるシステムを確立する。
- ・定期的なコンプライアンス研修会を開催する。

【地域・保護者との連携】

- ・生徒会が中心となって、あいさつ運動を毎学期実施したり、生徒会役員が駅（川越富洲原・伊勢朝日）で交通安全を呼びかけたりする活動、SNSトラブル防止活動等を実施する。

【働きやすい職場環境づくり】

- ・過重労働の解消、働き方改革に向けて、定時退校日の増設や休暇を取りやすい環境づくりをさらに進める。一斉退校日は毎月各自設定の方が取得しやすい。